

小林市立南小学校の学力向上への取組

1 平成17年度の本県の学力調査結果及び意識調査結果から見た課題

(1) 学力調査結果からの課題

平成17年度の「小学校学力調査」、「CRT検査」、平成18年度「NRT検査」のそれぞれを分析、検討しながら課題の抽出を行った。特に、学年全体で到達度に課題のある内容と到達度に関係のある内容に分けて学習状況をとらえる努力を行ってきた。その結果、学校全体としての課題や学年固有の課題が教科ごとに浮き彫りになってきた。

(2) 意識調査結果からの課題

平成17年度の「小学校学力調査」に伴う意識調査の結果、家庭学習について課題が指摘された。また、学校独自の意識調査を行っていないということも課題の一つとして挙げられた。

2 学力向上に向けた課題解決への具体的な取組

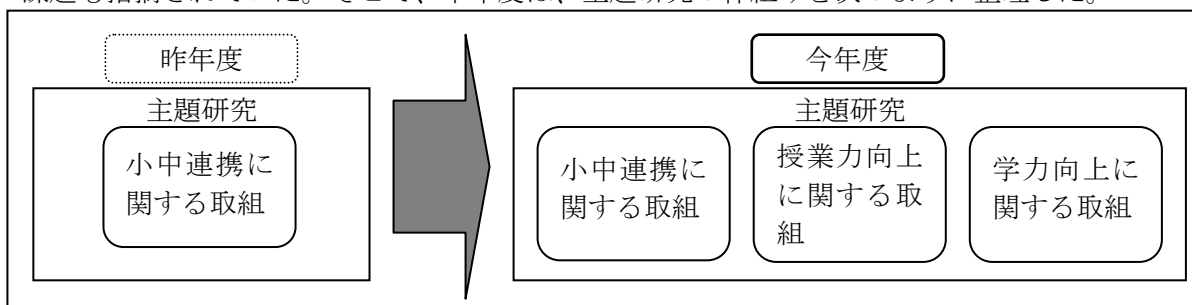
(1) 学力向上に向けた経営方針

「育てられる人(子ども)がいて、育てる(指導する)人(大人=教師)がいて、信頼関係の上に立った教育活動を展開するとき、効果的な人間形成がなされていくものである」という基本理念に基づき、PDCAのサイクルを重視した教育活動の展開を目指している。常に子どもを根底に置き、児童理解による実態把握や、指導法の工夫改善に努め、一人一人に応じたきめ細かな指導や教育活動を展開することを基本方針の最初に位置付けている。

(2) 教育課程内の取組

① 校内研修に関する工夫改善

昨年度は「知」・「徳」・「体」に関する推進拠点校としての取組を主題研究として位置付けていた。しかし、本校の児童の実態に即応した取組が組織的・計画的に進められないという課題も指摘されていた。そこで、本年度は、主題研究の枠組みを次のように整理した。



【図1 主題研究の枠組みの変更】

特に、「学力向上に関する取組」に関する研修では、各種学力検査で学校全体としての課題として浮き彫りになった「叙述に即した内容の理解」という課題に対して、授業改善を通して解決していくことにした。他にも様々な課題が指摘できたが、優先順位をつけ、課題を絞り込んだ結果、「国語科における叙述に即した読み取りの充実」をテーマに、全職員が知恵を出し合い、よりよい指導法の発見、共通実践に取り組むこととした。

② 小中連携の「知」に関する取組の推進

昨年度から推進拠点校として小中連携の研究を進めている中で、本年度は到達目標に対する評価計画を作成し、「読み・書き・計算・コミュニケーション能力」の評価を行っている。「どの場面で」、「どんな方法で」、「どんな評価」を行うのかを明確にした評価計画作成により、本校の「基礎・基本」の定着状況についての実態把握を行うことができ、諸検査とのクロス集計により、より本質的な課題の抽出ができると期待している。

(3) 教育課程外の取組

① 補充の時間の位置付け

週時程・校時程に、木曜日以外の放課後の15分間を使い、基礎学力定着を図る時間を「習熟の時間」として設定している。ただし昨年度までは、この時間の指導内容や形態は学年の

主体的な計画に委ねられていた。そこで今年度は、諸検査で明らかになった前学年までの既習事項の中で、学年全体で到達度に課題のある内容と到達度に関きのある内容に対しての補充的な指導を行う計画を学年ごとに立案し、意図的・計画的な活用へ変更した。さらに、特別支援教育の観点から「習熟の時間」に学級担任以外の教員を充てる計画もあるため、複数教員による指導形態をとることが可能になっている。

【表1 南小の週時程・校時程】 ※一部抜粋

時刻	月	火	水	木	金
	5 校時				
14:45		帰りの会	帰りの会	帰りの会	
15:00	6 校時	習熟の時間	習熟の時間	移動・準備	6 校時
15:15				クラブ委員会	
15:45	帰りの会				帰りの会
16:00	習熟の時間				習熟の時間
16:15					

② サマースクールの実施

夏季休業中に、習熟に関きの出る高学年の希望児童を対象に「サマースクール」を開催している。国語、算数の指導を中心に、少人数習熟度別の指導形態により、基礎学習から発展学習まで幅広く対応するようにしている。基本的には全ての教員で指導にあたるよう計画をしている。

③ 教育環境の整備

諸検査の結果、第3学年以上での「辞書の活用」に課題があることが判明した。そこで、これまで図書室に一括保管されていた辞書を第3学年以上の各教室に移動し、日常的に辞書を活用できる環境を整えた。図書室での使用も必要になるため、今後図書室用の辞書をまとめて購入し対応していく予定である。

(4) 保護者・家庭、地域との連携

① PTA 広報部と連携した意識調査の実施

学校独自の意識調査を行っていないという課題解決のため、PTA 広報部が主体となった保護者・児童を対象とした意識調査を実施した。これらの結果をPTA 新聞に掲載し、学校・保護者・地域が現状を把握し、具体的な取組を進めていく基盤づくりを行った。

② 家庭学習の啓発

本校は過去に「学力向上フロンティア事業」の中で、「家庭学習レインボープラン」を作成した。それをもとに昨年度は、小中連携の観点から改善を図り、「家庭学習の手引き」を作成し配付した。同時に、学校でも学級懇談会や学級通信等により、その具体的な活用を呼びかけた。さらにPTA 総会においても、本校の学力向上の取組等について説明・報告している。

3 成果と課題(今後の取組を含む)

(1) 成果

- ・諸検査の分析の方法を統一し、課題を視点ごとに分類して抽出した結果、その対応策がより具体的、計画的に行えるようになった。

(2) 課題

- ・小中連携の取組において、「読み・書き・計算・コミュニケーション能力」の評価結果をもとに、今後の対策を検討していく必要がある。